

夢かうつつか、奥利根は

奥利根 利根川水長沢文殊沢

古野

【日時】 2008年9月13日(土)～15日(月)

【メンバー】 斎藤、山川、古野

もう越後や奥利根には行けないと思っていた。体力や膝の不安が大きく、みんなに迷惑をかけられないと思っていた。そんな時に手嶋会長から誘いがあり、しかも心の奥で行ければ行きたいと思っていた水長沢だった。

いつも期待と不安は交互に浮き上がったり沈んだりする。そんな夜に「俺はヒザが不安で行けない」という手嶋会長のメール、おいおい、ハシゴを外すなよな、と言いたくなる（言ってしまったが）。天候との相談もありルートの検討時点からすでに期待は沈んだままとなっていた。幸い、ヒザは去年よりは調子がよい。

9月13日

あまり眠れなかった湯桧曾駅から早朝車を走らせる。途中ゲートで足止めの時にモリさん（高柳さん）と初対面。

奥利根本谷の時以来のダム湖はやはり異界への入り口、船がそこを突き進む。もう不安を口にしてもしょうがない。何とかなるさ。

釣り師に一足早く出合に着いたおかげで静かな山行となる、しばらくはおとなしい流れだがそのうちにトロが出始める。泳ぎが不得意な自分は、体力とは別に泳ぎもコワイ。後で聞くと山川さんも同族らしい。

魚止め沢先に写真で見た連瀑帯の入り口が見える。斎藤君は左岸から岩伝いに攻めている。とても無理だろう、と思っていたら最初の低い水量の多い滝を突破してしまった。でも次を登れたとしてもその先は無理で、我々が高巻きをしたとしても出会うのは難しい。申し訳ないが大声を出して戻ってもらう。

この高巻きは右から、踏み跡らしき物はあちこちにあるが、なるべく斜度の緩いルートを選んでいく。最後は浅いルンゼを使って降りた。その先のトロではとうとう泳ぎに。ザイルを出して引っ張ってもらうことにする。



文殊沢との二俣は本流の方が曲がっている。雨がぱらつき、時間が早いがこの先突っ込んで豪雨になるのが不安で、様子を見つつこの二俣に泊まることにする。

幸い、台地があり増水の心配はない。

ゆったりとした時間で竿を出してみるが全然アタリもない。乾杯しようとしてビックリ、斎藤君も酒を飲まない。ということで一人でビールを呑む。

雨はたいしたことなく、明日は早立ちだ。

9月14日

文殊沢にはいるとすぐに連瀑帯が始まる。左のガレっぼいルンゼから登り、巻きに入る。大滝に近づくと結局追い上げられて稜線近くまで登って踏み跡で滝上に出る。

沢が右折していくところに8mの直瀑。ここは左のバンドを拾って抜ける。

地図で文殊沢と書いてある辺りは両岸が高い中、まっすぐに沢床が続く、ちょっとおもしろい地形である。出口付近から大岩が増える。ここを抜けると二俣となり右にはいる。

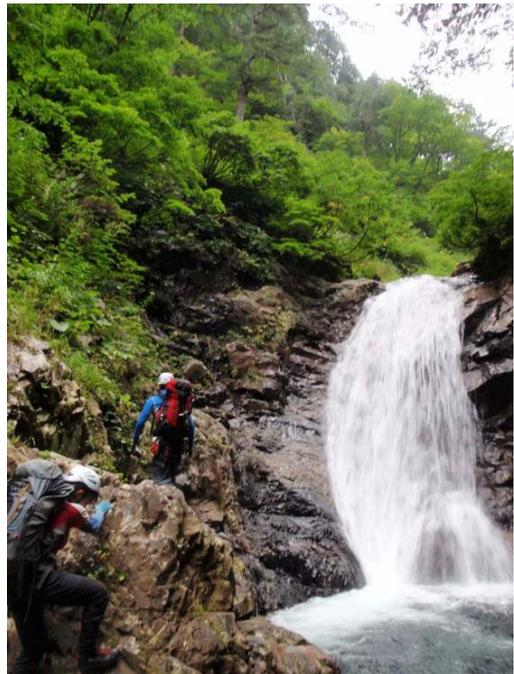
登れる滝が出てきて、ちょっと楽しい。次の二俣で中ノ沢に入れば楽勝かな、と思っていたら出ましたね、10m直瀑。とても登れないと思って巻き道を探していたら、斎藤君が右壁を登ってしまった。ザイルを出してもらっても不安だったが多少ルートを変えてクリア。でもノーザイルでの取り付きはちょっと危ない。

あとはもう平坦な高原状。でも湿原への枝沢が見つからない。思った以上に歩いたところに出合が。ここに入ってから沢の向きが地図とちょっと合わなくて不安だったが「予定高度まで行って見ましょう」という山川さんの提案に乗る。結局流れが蛇行し始めて水芭蕉が現れ、湿原にたどり着いた。

でも乾燥が進んで湿原は小さく分散してしまい、規模感は無く山川さんも落胆を隠さない。斎藤君は「やあ湿原ですね。」と満喫していた。湿原の北の方に沢が流れており、これもちょっと地形図にあわず、しっくり来なかった。

1時間近くのおんぴりして下降にかかる。

下降はやはり早い、特に若い二人は。先ほどの10m滝は懸垂で。天気も良くて快調に下る。と思っていたら嫌らしい滝が。懸垂下降も水流があつて難しい。結局山川さんがザイルを引いて右岸の立木に懸垂をセット。良く考えるとここはノーザイルでパン



ド状を登った滝のようだ。結局懸垂で下降したが、山川さんの速い判断はすばらしい。

連瀑帯手前のちょっとした滝は左岸の壁の登攀が難しいところ。自分は泳いで下るしかない、と登りの時から思っていた。山川さんは壁のクライムダウンに挑戦するが、結局ドボン。

連瀑帯の巻きは途中から予定していたとおり、稜線まで上がる。踏み跡が続いており、上手くいけば二俣にそのまま降りられそうだ。最後はちょっと藪になったが無事二俣に。なんと行動時間11時間以上の年寄りにはキツイ一日になったが、ここまで戻っておけば明日はゆっくり出来る、と一安心。夜は満月が顔を見せ、ヘッドン要らずの幻想的な一夜となった。



9月15日

ゆっくりと起きてゆっくりと出発したが、二人の足はゆっくりではなかった。

こちとら昨日のハードワークがたたったか、ヒザが痛い。何度か待ってもらったが、いかんともしがたい。もう一つの連瀑帯の高巻きも結局稜線まで登って踏み跡を下る。ただし自分が下降地点を通り過ぎてしまい、結局大沢向かい辺りで下降した。

それでも本流には15時という船の時間に2時間近く余裕をもって辿り着いた。

乾かしたタイムを楽しんでいるとどうも早めに船が来たらしい。

帰りはゆっくりと船を進める高柳さん。水上の例の温泉が高柳さんの家の近くと言うことで一緒に山を下る。温泉場で岩遊の豊野さんともお会いし、熊の話も十分聞いて帰り道に着いた。

バリバリの若手の足を引っ張りながらも何とか奥利根に入ることが出来た。

昨年のヒザの調子からすると夢のようである。船でのアプローチもまた夢への行き来のような気がして奥利根を特別な物にしているのかもしれない。

また、年寄りとも遊んで下さい。

【グレード】3級

【行程】9/13 水長沢出合(7:30)～文殊沢出合二俣(11:20) (BP)

9/14 BP(5:50)～東ノ沢二俣(8:10)～中ノ沢二俣(9:18/)～湿原(11:30/12:30)
～文殊沢出合二俣(17:20) (BP)

9/15 BP(8:10)～水長沢出合(12:30)～ダム(16:20)

